

「日中植林・植樹国際連帯事業」 中国青年短編動画制作者訪日団

参加者の感想（抜粋）

第1分団（愛知県・岐阜県）

○今回の交流活動で最も印象深いことは2つある。1つは、日本の人々が良い素質を備え、礼儀正しく、周りの人に気持ちの良い規範と礼節を感じさせるということだ。もう1つは、日本人が製造業の従事者を尊重していることだ。

国民の素質について、日本人は公共の環境の清潔さを大変重視し、公共の場は静かで、レストランやホテルでは自主的に椅子や机を整頓する等、これらの細かいことに驚いた。これこそ、今の中国人に最も欠けている点だ。小さい頃、私は日本の都市の施設、新幹線、地下鉄などハードの面を羨ましく思っていた。今は中国にもそれらがあり、日本より進んでいる分野もあるが、私達は列に並び、周りの人に迷惑をかけないことを習得できていない。中国の高速鉄道の車内では、よく大声で話をしたり、喧嘩をしたり、匂いが強いものを食べたり、中には靴を脱いでいる人を見かける。中国の高速鉄道では、どんなに疲れていても寝るのは難しい。一方、日本の新幹線では、私は快適に寝ることができた。中国でも日本の礼儀と規範を広めたい。

日本は手工業、製造業の労働者を尊重しているが、中国では軽視されているため、尊重されないことが多い。日本製の商品は大変質が高いため、購入して持ち帰る人が多いのだと思う。製造業を尊重し、職人を尊重するよう、より多くの中国人に呼びかけたい。

上記2点の他、日本の青い空、澄んだ水、美しい村落、環境保護意識の強さも取り上げたい。中日両国がより多くの互いに学び合う機会を持ち、誤解を解き、共に進歩するよう願う。

○今回の訪日交流活動で、日本に関する旅行以外の多くの分野について理解することができた。ごみ処理、防災教育、日本人の細やかさ、国民意識の普及、防災教育の普及方法は、どれも印象深く、中国が学ぶに値する。なぜなら、中国は環境や防災の意識が低く、防災教育は記念館や学校を対象とした教育・訓練はあるものの、日本の防災教育の方がより可視的、遊びの要素が豊富、双方向性があり、各都市・コミュニティの一部になっている。ごみ処理は今なお中国では初期段階にあり、人々の意識もごみ処理能力も、依然として大きな問題を抱えている。

岐阜県で岐阜八幡北町伝統的建造物群保存地区を見学し、日本のありふれた村落で小規模かつ素敵な生活を維持する方法を見ることができた。一方、中国の村落は今、大変革を遂げる中で多くのものを失っており、村落の建設と基層社会の運営は、日本に学ぶ価値がある。

○良い点：双方向性が強く、デザインやシミュレーションの再現が非常に生き生きとしていて、参加者は子供でも高齢者でも興味津々になり、環境保護や防災の重要性を深く感じ、具体的な方法を学ぶことができる。

(1)参考になる点：まず、仕事の態度について、我々に随行してくれた日本側事務局の方々であれ、訪問先の職人の方々であれ、まじめで細やか、勤勉で心配りが行き届き、責任を持って業務を遂行するという態度は、非常に印象深かった。彼らの笑顔、努力する姿は、今後の生活において必ずや素晴らしい思い出となり、プラスの影響を与えるだろう。日本で巡り合ったスタッフの皆様、先生方に大変感謝している。そして、様々な双方向性が良かった。参観経路などの設計が合理的な博物館や施設、各所に科学技術が高度に盛り込まれ、気持ちが込められた

対策や方法、どれも環境を大切に、愛する人を守り、小さなことを一つ一つ責任を持って行い、細部まできちんと処理すべきだと感じさせられた。

(2) 周りの人に伝えたいこと：日本は何度来てもよい国なので、みんなに使いやすくして良い商品にばかり注目するのではなく、素晴らしい人々や思考、仕事に対する態度も心で感じて欲しい。

第2分団（石川県・岐阜県）

○日本は総じて環境が大変良く、特に環境保護、ごみの管理・処理及び習慣は学ぶに値する。また、樹木がどこでも大きく育っており、森林の保護・リサイクルのレベルが大変高い。今回の視察で、日本の文化、環境等に大まかに触れ、多方面で深い体験ができた。主に以下の分野である。

(1) まず、サービスのブランド意識。様々な分野で日本人の細やかな対応に大変驚き、プロのサービス、一人一人が自分の仕事を確実にきちんと遂行する態度は、我々が真剣に学び、参考にする価値がある。

(2) 次に、伝統文化の継承と保護について、千枚田、和服、また白川郷の村落のようなものは、実は中国にも沢山あるが、保護と開発利用がなされていない。将来、これらの方法は必ず学ぶに値すると信じている。

(3) 住宅建築と住居内の空間の合理的な運用。人口が密集しているものの距離が効果的で、整然としており、交通、ひいては部屋間の距離から天井までの高さまで、調和された距離を保ち、人と自然の協調・統一がなされている。

(4) 飲食文化が非常に合理的。栄養科学の域まで達し、組合せが合理的で、テーブルの席にも無駄がなく、資源を最大限活用しており、中国に比べてかなり良い。我々はまだまだ先が長い。

○参考に値する点：環境保護と防災を大変重視し、仕事を大変細やかに行っている。このような態度は、学ぶに値すると感じた。どんな可能性も見落とさず、細やかな処理が行き届き、各部分で真剣に考え、「備えあれば憂いなし」が徹底されていた。一見すると、仕事をやり過ぎている感じがするが、何か起きた時、損失を最低限に抑え、ひいては多くの命を災難から救うことができる。

自国と異なる点：中国では賑やかで和気藹々とした雰囲気好まれるため、一部の業務の分担が明確でなく、職責の範囲が曖昧で、公共の場でも喧嘩しているときがある。そのため、秩序の制定と執行について、日本に学ぶべきだと思う。しかし、中国では割り箸は使わず、中・高レベルのレストランではより環境に配慮している。

伝えたい情報：みんなに時間があれば、是非日本へ行ってみよう勧める。清潔な道路、正確に運行する新幹線、美しい緑、まじめで細部まで配慮された防災の手段や措置、静かな公共の場、素敵な店の看板…きっと学びや収穫があり、また来たくと思う。

○今回の訪日活動を通じて、現在の日本について全面的に深く認識することができた。

1. 環境保護分野（文化遺産の保護と開発）

中国と異なる点は、現在中国では、大部分の旅行文化産業の開発が行き過ぎ、利益追求の過程で、自然環境に不可逆的な破壊をもたらしている。更に、利益を過度に追求する開発も本来の旅行の趣を損ねている。一方、日本は保護を主とし、開発を副とする策を講じ、環境破壊を

しない前提で開発している。この差は確かに大きく、帰国後反省すべき点だ。

2. 小規模村落の特色のある開発（伝統手工芸の人材保護）

日本と同様、中国も村落の急速な都市化の問題に直面し、如何に若者を村へ呼び戻すか、如何に伝統工芸を保護するかは大きな問題となっている。今回の訪日で、現地の良い例を見ることができた。棚田の遺産登録申請とイルミネーションのイベント、当地の特色のあるプログラムのブランド化、当地村落のブランド（白川郷）確立と周辺製品の開発だ。国は伝統手工芸を支援（手工芸のイノベーションと他業界とのコラボレーション）している。これらは全て、現在発展中の中国で参考にできる。

3. 高度な自律的国民性と整備された社会制度体系（一般市民の防災意識）

日本人の国民性は本当にレベルが高い。防災分野の教育も大変良く行われている。我が国のある指導者の言葉を借りれば、「我々の冬は大変寒い。しかし、我々は暖房をほとんど使わない。なぜなら、突発的災害が発生すれば、避難所にそのような良い条件があるとは限らないからだ。もし、快適な環境に慣れてしまったら、そのような環境に耐えることは大変難しいだろう。だから、我々は我慢することを選んだのだ」。この言葉は、心に深い環境・防災意識がなければ出てこないだろう。これを聞いて、大変感慨深く思った。